

北海道聖書学院 2023年度 1学期(4/15~7/12) 聴講のための授業案内

曜日	科目名	講師・教師	授業内容
火曜日	ギリシャ語文法①	高橋政宣師	火曜日と金曜日に学びます。ギリシャ語で書かれている新約聖書原典を読むために、基礎的な文法を学びます。多くの時間と努力を要する学びですが、原典に接することで得られる恵みは計り知ることができません。
	キリスト教史①	川崎憲久師	「知識もなしに言い分を述べて、摂理を暗くするこの者はだれか。」(ヨブ記38:2) 歴史を知ることを通して神の摂理に対する信仰の目が養われます。
	北海道キリスト教史	川崎憲久師	かつては蝦夷地、流刑の地、強制労働の地、逃亡者の逃れの地であった北海道に福音を広められた神の御手を、歴史を通して考察し、地方史から全体史を捉え直す信仰的視点を養います。
	宣教学(史)	松元 潤師	世界宣教の歴史を通して宣教とは何かを学び、「今日におけるキリスト者の宣教」(J・ストット、C・ライト共著)から宣教を捉える視点を見出し、深化を語り、私たちが遣わされる教会を考えることを目指します。
水曜日	旧約聖書通論①	吉田浩二師	創世記から小預言書までを3学期かけて学びます。各書を自分で読むことができるようになる「鍵」をお渡ししたいと思います。
	教会論(15週)	松元 潤師	私たちクリスチャンは「教会」に所属しながら、教会に関して誤解や混乱したままに教会生活を送っているかもしれません。その原因を知った上で、教会とは何かを問い直しつつ教会生活や諸活動について学びます。
木曜日	組織神学序説(15週)	松元ハンナ師	神学を学ぶ意味、神学の前提などを一緒に考えます。神学することと神のために生きることが統合されていくための本質的な学びです。
	啓示・聖書論 1学期5週/2学期10週	松元ハンナ師	聖書そのものが何を語っているかを土台に、啓示の意味と価値を学びます。そして学院の授業の柱となっている聖書釈義の前提である聖書の無謬性について共に考え、私たちの聖書観を確認します。
	聖書解釈学(15週)	吉永光生師	聖書を靈感された誤りなき神のことばと信じていても、その解釈の方法があいまいであれば、神のみこころを正しくすることはできません。そこで、歴史的プロテスタントの方法に従って、字義的・文化的・批評的に聖書の意味を正しく理解する方法を学びます。
	カテキズム	水草修治師	使徒パウロは「神のご計画のすべてを、余すところなくあなたがたに知らせた」(使徒20:27)と言いました。このクラスは、神のご計画の全体をバランスよく理解するために、教理問答というかたちで体系的に整理するものです。資料は、当方で用意します。
	説教理論Ⅲ	小澤和男師	講解説教の準備を学ぶためのより実践的なクラスです。「説教理論Ⅰ・Ⅱ」「ギリシャ語文法」を履修された方が履修することができます。
金曜日	ギリシャ語文法②	高橋政宣師	火曜日の欄参照
	牧会学Ⅰ(基礎)	竹本邦昭師	牧会とは何か、牧会者とはだれか、何を、いかにすすめるのか、「牧会」ということばを使う人によって様々な混乱が起きています。このような牧会の現場での混乱、教会の中の痛みを聖書からの解決を求めます。
	個人伝道	堀田修一師	主の恵みを味わい、みことばとイエス様の個人伝道を学び、御聖霊に拠り頼んで主を伝える器となることを目指します。マルコ3:14にあるように、①まず、主のみそばで主の恵みに憩い、②それから宣教、伝道に遣わされる事を目指します。
土曜日	聖書地理	吉田麻希子師	資料と模型を使いながら、聖書の舞台となったイスラエルの地理を学びます。主な地形・町を覚え、聖書の出来事と地理を確認しつつ学ぶことで、「土地勘」を身に付け、聖書を読む際に、より深い理解へ導かれることを目指します。
	新約聖書通論①	吉田麻希子師	新約聖書の各巻の背景を理解し、各巻の全体的な概要を把握するための学びです。また、執筆順とその時代を意識して読み進めることで、新約時代への理解を深めます。「一書通読」するからこそその発見を、ご一緒に体験してゆきましょう。
	キリスト教倫理	菜花和男師	21世紀において教会・キリスト者はどう生きるべきか。現代社会の課題を意識しつつ、キリスト教倫理の土台として十戒を取り上げます。諸問題の解を聖書に求めます。テキストは泉田 昭著「キリスト教倫理」(いのちのことば社2009年)です。

※1 聴講を希望される方は、聴講願書にご記入の上、学院へご提出ください。所属教会の責任者の推薦が必要です。

(聴講願書は、同封いたしました。足りない場合は、コピーしてください。)

※2 聴講料は1科目につき、1学期間15,000円です。3回に分割して納入することもできます。(1ヶ月5,000円×3回)

複数の科目を聴講し、1ヶ月の聴講料が20,000円以上になる場合は、20,000円を超過した分は免除となります。